

松阪警察署協議会議事録

令和4年度第2回松阪警察署協議会	
日 時 場 所	令和4年10月25日（火）午後 3時45分～午後 5時 松阪警察署4階訓授室
出席者	<p>1 警察署協議会委員 10名 青井弘子委員、グエン ダン ギア委員、下村真也委員、 庄司愛委員、鈴木寛子委員、高岡良治委員、 竹岡春俊委員、前川長三郎委員、前田朱美委員、 山本哲也委員</p> <p>2 警察署 11名 署長、事件指導官、会計課長、警務課長、留置管理課長、 生活安全課長、地域係長、刑事第一課長、刑事第二課長、 交通第一課長、警備課長</p>
傍聴者数	なし
公開・非公開の別	公開
議 事 概 要	
<p>1 警察署長挨拶</p> <p>2 管内治安情勢（警察署長）</p> <p>(1) 拾得届・遺失届受理状況 「令和4年8月末現在における拾得届及び遺失届受理件数は、前年同期と比べて増加傾向にある。」旨説明した。</p> <p>(2) 警察安全相談受理状況 「令和4年9月末現在における警察安全相談の部門別件数は、生活安全関連が最も多く、次いで刑事関連、交通関連の順になっている。」旨説明した。</p> <p>(3) 人身安全関連事案認知状況 「令和4年9月末現在における人身安全関連事案認知件数は、前年同期と比べて児童虐待事案が増加傾向にある。」旨説明した。</p> <p>(4) 少年補導実施状況 「令和4年9月末現在における少年補導件数は、前年同期と比べて増加傾向にある。」旨説明した。</p> <p>(5) 110番通報受理状況 「令和4年9月末現在における110番通報は、前年同期と比べて増加傾向にある。」旨説明した。</p> <p>(6) 山岳遭難認知状況 「令和4年9月末現在における山岳遭難認知状況は、前年同期と比べて増加傾向にある。」旨説明した。</p> <p>(7) 刑法犯認知・検挙状況 「令和4年9月末現在における認知件数は、前年同期と比べて増加傾向にあるが、検挙件数は減少傾向にある。」旨説明した。</p> <p>(8) 交通事故の発生状況 「令和4年9月末現在における総事故件数は、前年同期と比べて増</p>	

加傾向にあり、交通死亡事故は高齢者の事故が増加している。」旨説明した。

(9) 災害の発生状況

「令和4年9月に上陸した台風により松阪市内と明和町で倒木等の被害があったが、人的被害はなかった。」旨説明した。

3 管内の特殊詐欺の被害発生状況等（刑事第二課長）

「令和4年9月末現在における特殊詐欺被害は、前年同期と比べて増加傾向にあり、高齢者を中心に依然として高い水準にある。」旨説明した。

4 管内の特殊詐欺に対する取組（生活安全課長）

「令和4年9月末現在における特殊詐欺被害の未然防止（水際阻止）状況は、金融機関やコンビニエンスストア等における適切な声掛けなどにより7件を阻止している。」旨説明した。

5 協議内容

(1) 特殊詐欺について

<委員> 業者が自宅に訪れ、強引に家屋を修理して代金を請求する業者がいると聞いた。

これは特殊詐欺に当たるのか。

【生活安全課長】 この事例は特殊詐欺の分類には当たらないが、特定商取引法に違反する場合がある。

<委員> 先日、金融機関で職員が特殊詐欺被害を防止するため、来店者に声掛けを行っているところを目の当たりにした。

このような金融機関等の地道な活動や努力を新聞記事で紹介すると、金融機関等の励みにもなり、より一層抑止効果があるのではないかと考える。

<委員> 特殊詐欺の詳細な説明を受け、よく理解できた。
地域で還元したい。

(2) 薬物の低年齢化について

<委員> 覚醒剤や大麻が低年齢化していると聞いた。

以前、「休日になると仕事仲間たちに薬物を使用するように命令される。」と相談を受けた。

私が代わりに警察に相談をしたが「本人が来てほしい。」と言われた。

【署長】 事件情報は内容を吟味する必要があり、裁判所に捜索・差押許可状を請求する場合はうわさ話だけでは信ぴょう性がないため、情報元の人物から警察官が直接確認する必要がある。
例示の人物はもう薬物は使用していないのか。

<委員> 地元に戻ったため、使用していないと考えられる。

(3) 110番通報について

<委員> 110番センターの視察は、大変興味深く見学した。

多様な通報があると思うが苦慮している通報はどのようなものか教示願いたい。

【署長】 110番通報は、被害者や目撃者などからの通報が多いが、中には、いたずらで何度も通報をしてくる通報者もいる。
本当に被害に遭っているのか、虚偽の通報なのか見極めが難しいので適切な利用をお願いしたい。

(4) 防犯カメラについて

<委員> 事件捜査等に防犯カメラが有効であると聞いている。
警察が設置することはあるか。

また、市民から設置要望を受ける機会はあるか。

【署長】 基本的に、警察が取り付けることはない。

行政目的で設置することが多く、自治会が自分たちの町に防犯カメラを設置したところも多くあると聞いている。

【生活安全課長】 松阪市の場合、住民自治協議会から防犯カメラの設置に10万円程の補助金が出ると聞いている。

<委員> 犯罪者は明るいところを嫌うと言われていたが、今は防犯カメラを嫌うと考えられる。

【署長】 事件捜査に当たり各部門において、防犯カメラの映像は重要で、警察本部には防犯カメラ精査のプロフェッショナルの部署がある。

<会長> 私の地区でも住民自治協議会の補助金を受け、不法投棄の現場に防犯カメラを設置し効果があった。

<委員> 私の地区では通学路に防犯カメラを設置した。

<委員> ドライブレコーダーの映像から犯人を割り出した事例を聞き、警察は事件解決のために様々なものを活用していると感心した。

(5) 孤独死について

<委員> 独居高齢者の孤独死が多いと聞いている。
身寄りのない方は、どのように対応しているのか。

【刑事第一課長】 松阪署は県下でも検視が多く、去年は約320件対応している。

例示の場合、刑事課員が現場へ赴き、死因が犯罪によるものか捜査し、事件性がないと判断した場合は親族等へお返しするが、身寄りがない場合は最終的に市へ引き継ぐことになる。

(6) シニアカーについて

<委員> シニアカーが、横断歩道のない国道を横断しているところを見かけた。

購入時に安全運転の指導等はされないのか。

【交通第一課長】 シニアカーは車両ではなく、歩行者として扱われる。警察としては、安全確認やシニアカーのスピードで渡りきれぬ運転など、交通事故防止について広報していきたい。

<委員> 歩行者として扱われるという考えはなかった。

中には店内まで乗り入れる人もいる。

警察でできない場合は、購入時に安全指導すると良いと考える。

【署長】 交通課や地域課と協議しながら啓発活動等を推進していきたい。

(7) 外国人に対する交通安全講習について

<委員> 外国人の技能実習生などが多いが、外国人は日本のマナーや交通ルールが分からない。

研修先に警察官が赴き交通安全や防犯について指導を受ける方法も考えているが、どのように考えているか。

【交通第一課長】 外国人の技能実習生を雇用している企業から多くの講習依頼を受けている。

日本の交通ルールや防犯の講習を実施しているので積極的な利用をお願いしたい。

(8) 祭礼等に伴う交通規制について

<委員> 祭りやマラソンなどの行事が開催されている。

行事に伴い生活圏内での交通規制が多くなり、生活に支障が出たり、違法駐車が増加しないか危惧している。

対策はどのように考えているか。

【交通第一課長】 行事に伴う交通規制により交通流は変化する。

事前に主催者と協議し、案内板の設置による広報、交通誘導員を配置するなど交通流の確保に留意している。

交通規制により、想定していないような問題が発生するようであれば、今後の改善に活かしたいので、ご教示いただきたい。

6 警察署長謝辞

備考	報道機関 2 社 2 名
----	--------------